

トラブル事例集 <省エネUVインキ製品>

※はじめに必ずお読み下さい。

- * この事例集はUVインキ製品を使用する際に発生する可能性があるトラブルをまとめたものです。皆様の業務にお役立て下さい。
- * 主に、油性インキから省エネインキへ切替をされるユーザー様で多いトラブル事例を集めてあります。
- * この事例集に記載された情報はあくまで参考例に過ぎず、内容自体をDICグラフィックス株式会社が保証するものではありません。
- * 本資料において、UVインキ製品とはUVオフセットインキ、UVフレキソインキ、UVOPニス、UVクリヤー等の製品を指します。

トラブル例	原因は？	対処はどうする？
つぼ上がり	樹脂の特性上、油性インキと比較して、流動性、転移性が若干劣ります。	お手数ですが、こまめにつぼを攪拌して下さい。
機上安定性 (インキつぼ内での乾き)	UVインキは光で硬化する特徴を持っています。そのため、外部の光(室内灯、日光)でもインキが反応して硬化してしまう場合があります。省エネUVインキは高感度設計となっているため、通常のUVインキ以上に注意が必要です。又、ニス等の無色系は特に注意して下さい。	インキつぼに遮光性のあるカバーを付けて下さい。使用中のインキ缶は必ず蓋をして下さい。室内灯は紫外線カットタイプにして下さい。窓ガラスには、紫外線カットフィルムを貼ってください。又、長時間印刷機を止める場合には、ローラー上、版、ブランのインキを洗浄して下さい。
マットOPニスのブランパイル	UVマットインキは、マット剤が、版、ブランに堆積し易い特性があります。	ブラン、版の洗浄はこまめに行ってください。過乳化するとパイルが発生し易くなりますので、湿し水は絞り気味で印刷して下さい。どうしてもパイルが収まらない場合は、光沢タイプのOPニスを添加して下さい。
蛍光インキの汚れ 金銀インキの汚れ	顔料の特性上、過乳化し易く、水棒に絡む傾向があります。又、濃度を出すため、盛り気味にて印刷されているケースが見受けられます。	2度刷りをご検討下さい。
接着不良	UVインキは、硬化時に塗膜が収縮するため、基材との間に歪が生じます。そのため、油性インキと比較して、基材への接着性が劣ります。特に省エネインキのニス関係はその傾向が強くなります。	事前に、基材との接着性をご確認下さい。
ブロッキング	紫外線の照射量が不足している場合、表面のタック感が残りブロッキングを起こします。高密着タイプのインキは(ダイキュアRTX等)はその傾向が強くなり注意が必要です。	高密着インキを使用される場合は、お手数ですが板取りを行って下さい。絵柄の重さ、デザインによって、ブロッキングの危険性は変わります。特に墨は光が通り難い色ですので、盛り過ぎに注意して下さい。